

### 環境調査結果のお知らせ

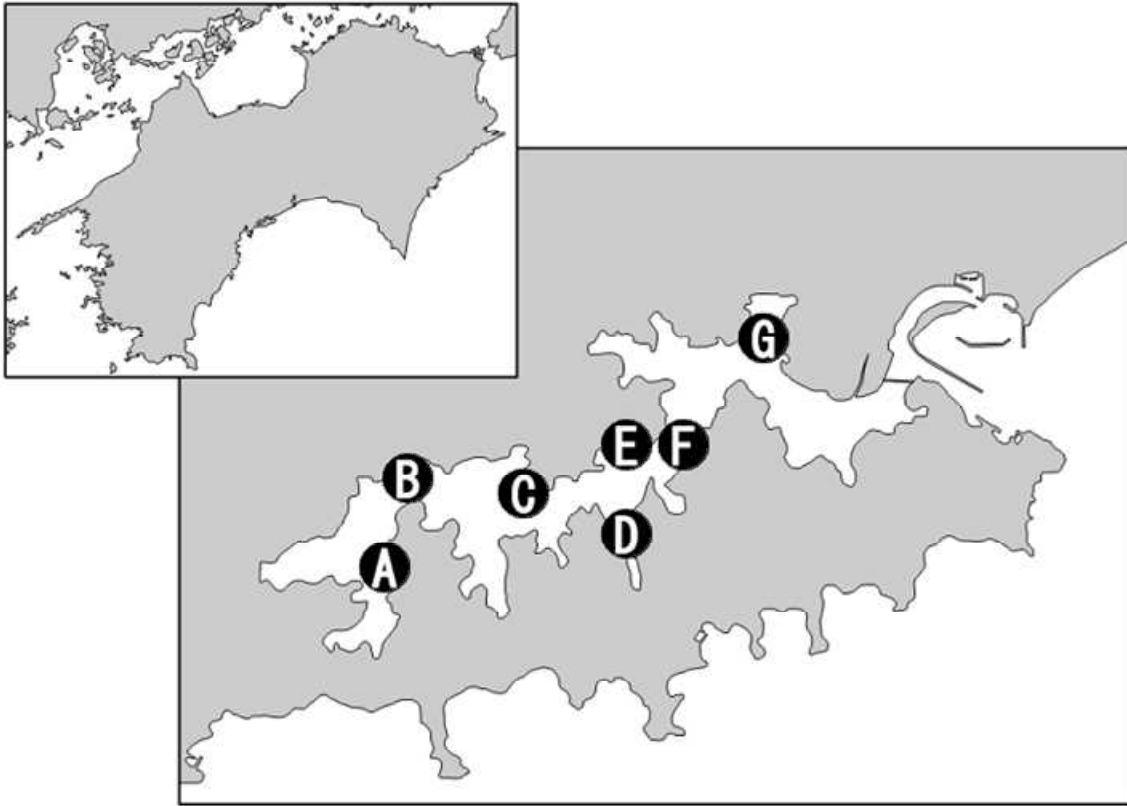
令和6年10月17日9時から浦ノ内湾の環境調査を実施しました。

#### 概況

検鏡の結果、魚類に対して有害なケラチウム属が135 cells/mL、二枚貝に対して有害なヘテロカプサ・サーキュラリスカーマが最高で5,100 cells/mL確認されました。ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマは被害が想定される細胞密度を超えています。また、湾全域で中層（3～5 m）の溶存酸素量が低下していますので、十分注意してください。

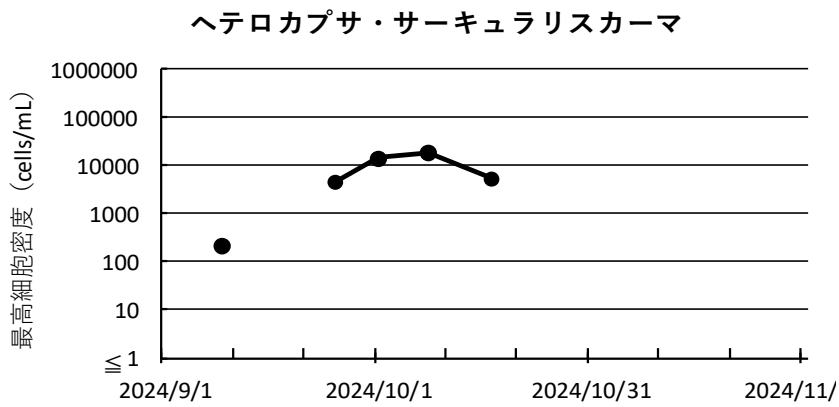
海や養殖魚、貝類の状態に不安や変化を感じた時は、良く洗ったペットボトルに海水を汲むなどして、水産試験場か中央漁業指導所まで連絡してください。

調査点 (透明度) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度 (m)	水温 (°C)	塩分	溶存酸素 (mg/L)	ケラチウム 属	ヘテロカプサ・ サーキュラリスカーマ	珪藻
A 鳴無 (3.1m) 【09:58】	0	26.1	28.4	8.5	-	0	-
	2	28.5	31.4	9.4	-	950	-
	5	27.4	31.7	0.2	-	1,150	-
	底層 8	27.3	31.8	0.0	-	360	-
B 中学校前 (4.2m) 【10:06】	0	26.2	28.5	8.5	-	0	1,480
	2	28.7	31.3	10.4	-	8	180
	5	27.5	31.7	1.4	-	380	220
	10	27.2	31.9	2.7	-	0	60
	底層 11	27.2	31.9	2.8	-	4	60
C 目ノクソ (3.6m) 【10:13】	0	26.3	28.8	8.7	-	0	-
	2	28.3	31.4	9.3	-	40	-
	5	27.6	31.7	2.2	-	160	-
	10	27.1	31.9	3.5	-	7	-
	底層 15	27.0	32.0	4.4	-	7	-
D 福良 (3m) 【10:23】	0	26.4	29.6	9.4	135	0	-
	2	27.9	31.4	7.4	-	2,650	-
	5	27.5	31.7	1.0	-	320	-
	底層 9.5	27.3	31.8	1.3	-	200	-
E 光松 (4m) 【10:33】	0	26.8	29.4	8.8	-	180	520
	2	27.6	31.3	7.4	-	5,100	200
	5	27.4	31.8	2.9	-	220	200
	10	27.1	31.9	4.3	-	2	70
	底層 16	26.9	32.1	5.6	-	0	20
F 大鹿 (4.2m) 【10:39】	0	27.0	29.4	9.3	-	5	-
	2	27.5	31.0	8.2	-	1,350	-
	5	27.2	31.8	3.7	-	70	-
	10	27.0	31.9	4.8	-	6	-
	底層 15.5	26.7	32.3	5.8	-	0	-
G 水試小割前 (4.4m) 【10:49】	0	27.1	30.8	7.8	-	180	-
	2	26.9	30.9	7.8	-	180	-
	5	26.8	32.2	6.4	-	70	-
	底層 8	26.6	32.5	6.2	-	0	-



- A: 鳴無
- B: 中学校前
- C: 目ノクソ
- D: 福良
- E: 光松
- F: 大鹿
- G: 水試小割前

令和6年度 浦ノ内湾におけるヘテロカプサ・サーキュラリスカーマの最高細胞密度の推移



参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	<b>1,000 cells/mL</b>	5～8月	6～8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	6～8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	—	2～4月	5～6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	<b>50,000 cells/mL</b>	3～12月	4～8月	4～11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	<b>5,000 cells/mL</b>	6～7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	<b>10,000 cells/mL</b>	8～9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	<b>500 cells/mL</b>	8～11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	<b>100 cells/mL</b>	—	1～4月	3～5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	<b>1 cell/mL</b>	—	—	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。